

## 第2回バイオ技術研究セミナー

## バイオ産業を取り巻く最新動向

医薬、農薬、食糧生産およびエネルギーなど多くの分野において、バイオ技術は今後もますます利用が進むと考えられます。本セミナーでは、バイオ技術を活用するうえで必須の資源“リン”の世界的な枯渇問題の現状と持続的利用に向けた取組について紹介します。

また、県内大学の研究シーズとして、バイオ技術を活用した有用物質の生産技術の開発の最新動向について紹介します。

## ● 持続的リン利用—人類の新たなグローバル問題—

大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授 大竹 久夫 氏

## ● 物質生産に応用可能な新規酵素の開発

～酵素・微生物によるモノづくりの可能性～

立命館大学 生命科学部 生物工学科 准教授 三原 久明 氏

日 時: 平成26年3月27日(木)  
15:00~17:00 (17:15~ 交流会)

会 場: ホテルポストプラザ草津  
ノースウイング12階「クロケットルーム」  
(滋賀県草津市西大路町1-27)

参加費: 無 料

※ただし交流会は有料(SBO会員3,000円、非会員5,000円)

申込み方法:裏面の申込書に必要事項をご記入の上FAXまたは  
ホームページからお申し込みください。(http://www.shiga-bio.jp/)



主 催 : 滋賀バイオ産業推進機構 (SBO)

後 援 : (公財) 滋賀県産業支援プラザ・(一社) バイオビジネス創出研究会・立命館大学  
長浜バイオクラスターネットワーク・滋賀県環境産業創造会議

# バイオ産業を取り巻く最新動向

(会場:ホテルポストプラザ草津ノースウイング12階クロケットルーム)

15:00～ 挨拶

15:05～ 持続的リン利用—人類の新たなグローバル問題

大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授 大竹久夫氏

(概要)

人間は食糧を生産するために、天然資源のリン鉱石を掘り続けています。自然界でリン鉱石が生成するには1億年もの長い年月が必要なため、リン鉱石は事実上有限かつ非再生可能な資源です。リンがなければ、食糧はもとよりバイオマスもバイオ燃料も生産できません。今、欧米では持続的リン利用パラダイムが注目を集めています。本講演では、このパラダイムについて解説するとともに、人類の新たなグローバル問題の解決をめざす世界の取組みを紹介します。

16:05～ 物質生産に応用可能な新規酵素の開発 ～酵素・微生物によるモノづくりの可能性～

立命館大学 生命科学部 生物工学科 准教授 三原久明氏

(概要)

酵素が有する立体選択性や反応特異性は、光学活性物質および複雑な構造をもつ生理活性物質の合成に特に有効です。本講演では、演者が研究対象としてきた酵素のうち、物質生産に応用可能な酵素の研究事例として、リジン代謝関連酵素と含硫補因子合成関連酵素について紹介します。また、酵素・微生物によるモノづくりの更なる可能性についても紹介します。

17:15～ 交流会 (会場:ホテルポストプラザ草津ノースウイング12階スカーレットルーム)

(※交流会参加費:SBO会員3,000円、非会員5,000円)

ホームページからも申込みできます

<http://www.shiga-bio.jp/>

----- 申込書 -----

滋賀バイオ産業推進機構(SBO)宛

参加申込書

FAX 077-528-4876

お名前	所属(会社名)・部署	連絡先	交流会	SBO 会員区分
		TEL E-mail	参加・不参加	会員・非会員
		TEL E-mail	参加・不参加	会員・非会員
		TEL E-mail	参加・不参加	会員・非会員

お問い合わせ先: 滋賀バイオ産業推進機構事務局

大津市京町4-1-1(滋賀県庁モノづくり振興課内)

TEL 077-528-3794 担当 上田中・松田